

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

ハイスクールD×D

↳ 規格外の来訪者↳

【作者名】

ジョセフィーヌ

【あらすじ】

別の世界に転生した主人公がハイスクールD×Dの世界に行く作品です。

この作品はハイスクールD×D

↳ 闇と光の異世界人↳

として書いていたものを書き直した作品です。

いざ新世界へ

【主人公side】

「じじは…」

初めまして。俺の名前は 神代 煌鷹 (カミシロ コウヨウ) だ。

突然だが、俺は今、とても混乱している。 何故かと言つと ……。

青い海。雲一つも無い空。そして、光輝く太陽!!

「イヤイヤイヤイヤ。可笑しいだろ。何で海？ 普通は何もない真っ白な空間だろ。まあ、こんなことをやる奴はあいつしかいないはずだ。なあ、ゼウス？」

俺はそう言いながら後ろを向く。

すると、そこには――

アロハシャツを着て、ビーチサンダルを履き、グラスンをしている最高神がいました。

「……………何してんの？」

「え？何って、海を満喫しているだけだよ？」

「……………そっつすか」

はあ、空が青いな……………。

現実逃避中 §§§§

§§§§ 主人公

「大丈夫かい？煌鷹くん」

「ああ」もう大丈夫だ。それで、俺に何か用があって呼んだんだろ？」

現実逃避をしてしまったが、こいつーゼウスは俺に用が無い限り、俺を呼ばないからな

何か用があるんだろ。邪神倒せとか、魔王倒せとか。

「うん。実はね、煌鷹くんがいる世界とは別の世界に行って欲しいんだよ」

そう思ってた時期がありました。

「あれ？聞こえなかったかな？」

「いや、一応聞こえている。で、それはどついつことだ？」

まさか予想の斜め上をいくとは思わなんだ。

「煌鷹くん、字が可笑しくない？」

あつ、思わなかった、だった。

「まあ、それは良いとして、何故行かなきゃいけないんだ？」

「それはね、その世界の神様、まあ、その世界を創ったと思われる。神様が居なくなったから代わりに煌鷹くんがその神様の役をして欲しいってことだよ」

ちよ、神様居なくなったのかよ、それはヤバイな。

「でしょ？だから行っちゃいなよYOU」

なんだよその言い方。まあ、その神様がない世界も気になるが、問題があるんだよな。

「別に行くのは構わないが、俺の家族はどうなるんだ？」

そう、俺には家族がいる。いるつつつても血は繋がってないし。母親とか父親みたいな存在はないけどな。

「ああ、君の家族のことは心配しないで、後でメイコちゃんに言うからな」

「そっか、なら良いや。」

多分メイコたちなら、自力で来そうだし。

「じゃあそろそろその世界に送るけど、準備は良い？」

「いつでもOKだ」

「それじゃあ、行ってらっしゃい」

ゼウスがそう言つと同時に俺の世界が暗転する。

ああ、どうなるじゃあな。

【ナレーション on side】

「行ったか・・・」

ゼウスは一人呟く。

「うん。神様が居ないって言ったけど、実際は神様がいてもいなくても、変わらないんだよね」

ゼウスの声は何も無い真っ白な空間に響き渡る。

「まあ、いつか。よし、早速、メイコちゃんに連絡しよう」

そう言い、ゼウスはこの空間から姿を消した……。

主人公設定

【名前】 神代 煌鷹 (カミシロ コウヨウ)

【容姿】 明るい銀髪に紅の眼、

【身長】 176cm

【体重】 62kg

【性格】 めんどくさがりやだが、面白そうなことには自分から突っ込む。

ちよっと？戦闘狂。ド

S。

【好きなもの】 家族。血。

【嫌いなもの】 強姦、輪姦などをする、クズども。

【魔力量】

【属性】 光(聖)、闇(暗黒)、(邪)、混沌、血、重力

【能力】 幼児化 … その名の通り、幼児になる。身長は116cm
体重は20kg

女体化 … その

名の通り、女になる。

身長は174cm

体重は59kg

名の通り天使になる。7対7の計14枚の純白の翼が現れる。

天使化：：その

うになる。

『能力』：：聖属性が使えるよ

相手の攻撃を反射するバリアーを創れる。

焼失、浄化の白い炎

「聖天の魔眼」 (ホーリー・アイ)

自分の目に写った者、物を、治癒、再生できる。

墮天使化：：そ

の名の通り墮天使になる。7対7の計14枚の漆黒の翼が現れる。

『能力』：：邪属性

が使えるようになる。

「死滅の邪眼」(イーブル・アイ)

自身が見つめた者の動きを封じる。

ぬ。

自身が見つめた者の命を奪う〓死

悪魔化・・・その

名の通り悪魔になる。

漆黒の闇で形成された、蝙蝠のような

翼が現れる。

『能力』・・・暗黒属性が使えるよ

うになる。

相手の攻撃を吸収するバリアーを創れる。

破壊、侵食の黒い焰。

「幻操の魔眼」(イリュージョン・アイ)

自身が見つめた者に幻を見せる。

自身と眼があった者を操る。

規格外、来訪しました

【煌鷹side】

「知らない…天井も空も見えませんか、ハイ」

ハロハロ。神様がいないと言う世界に来た、煌鷹です

今、俺の現在地は木々が鬱蒼と茂った森の中だ。とりあえず、ゼウスに念話をしましょう、そうしましょ。

『やあ、どうしたんだい、迷える子羊よ?』

「誰が子羊だ」

「まったく、いきなり何ですか?」いきなり迷える子羊よ』とか、テメエは神父か?」

『ハハ、最高神だよ』

「んなことはわかってんだよ!!」

「分かりきったことを言わないでほしいものだよ。ハア、いきなり調子が狂った…。」

『まあまあ。それで、用があるから念話してきたんでしょ?』

「ああ。問題の世界に来たけどさ、俺、この世界のこと何も知らないんですか?」

『あ、そうだったね。それじゃあ早速教えるよ』

「了解した」

『うん。えっとね、その世界には、天界、冥界、地上界があるんだよ。地上界は、煌鷹くんが生まれた世界、地球と同じだから』

おお、地球と同じなのか、それは……良いね

『因みに煌鷹くんが居るところは冥界だから、悪魔とかドラゴンとか
沢山いるよ』

「ちよ、そこは地球にしてくれよ」

何故に冥界？俺にサバイバルでもしろってか？

『いや、煌鷹くんお金持ってないでしょ？だから手っ取り早くお金を稼げる冥界が良いんだと思ったんだけど』

「ああ……。それは盲点だった。んで、その手っ取り早く金を稼げるってどういことですかい？」

まさか冥界で働けとは言わないだろうっね？

『ん？バウンティハンターのことだけど？』

「バウンティハンター？賞金稼ぎか？」

『うん。煌鷹くんなら簡単でしょ？』

「否定はしない」

イヤー。チートの塊ですからね、俺。

『ハハ、だろっね。後、バウンティハンターたちが集まる所はその森から西にあるから』

「おう。了解した。それとさ、一つ気になることがあるんだけど」

『何だい？』

「この世界の神は死んだんだろ？何で死んだんだ？」

仮にも神を名乗ってるんだ、この世界じゃトップクラスの實力を
持ってるはずだからな。

『ああ、それはねーー』

話が長いので、簡単に説明しよう。

昔、神率いる天使軍団と魔王率いる悪魔軍団、そして墮天使総督率
いる墮天使軍団がいた。その三すくみは長年いがみ合っていて、とう
とう戦争勃発!!

その三すくみで戦争をしていたんだが、ある日、二体のドラゴン、
《赤龍帝》ドライグ、《白龍皇》アルビオンがその戦争に乱入した。

ドラゴン二体が現れたことで戦争どころではない。それで、天使、
悪魔、墮天使は一時休戦し、協力してあいつらを倒そう!! っとなっ
たわけだが、流石はドラゴン、最終的に 神 器 セイクリッド・
ギア というものに封印されたが神と四人の魔王を道連れにしたら
しい。

イヤー、ドラゴンは強いね。この世界の頂点に君臨してるのもドラ
ゴンらしい。

因みに、神 器てのは、死んだ神が創ったらしい。手にすると色んな能力が使えるようになるものだ。中には 神滅具 ロンギヌス という、手にすれば神や魔王を殺せるものが十三個もあるらしいね。

しかし、ここの神って実はバカじゃないのか？何で、自身を殺せるようなものを十三個も創ったんだ……？

まあ、これで、煌鷹くんの良く分かる解説（笑）は終わりだ。

『お疲れ様。そう言えば煌鷹くんに伝えなきゃいけないことがあと一つあったんだよ』

「ん？何だ？」

『煌鷹くんが持つてる神話の神や英雄の武具を使える能力があるでしょ？それは 神 器ってことになってるから。能力も追加したから後で確認してね』

「おー、了解しましたですよ」

『うん。それじゃあそろそろ切るよ』

「わかった」

と言いつつ同時に念話が切れる。

「よし。行きますか」

そう言い、俺が愛用している、某鍵剣使いに出てくる13人が着用する「コートを着る。」

「あ、後で神 器の能力を確認しなきゃな」